

## 愛川町・立科町 友好都市35周年

立科町と愛川町が昭和62年2月に友好都市提携を結んでから今年で35周年を迎えました。今回、これを記念して、両町の広報紙にお互いの町を紹介する特集ページを掲載します。

# 友好都市・立科町へ行ってみませんか!!

愛川町と立科町が住民相互の友好親善活動を活発化するため、友好都市提携を結んでから35年。その間両町は、スポーツ・文化・経済面などさまざまな交流を盛んに行ってきました。



「女神のそらテラス1830」から女神湖を望む

ごあいさつ

## 愛川町民の皆さまへ



立科町長  
両角 正 芳

昭和62年2月5日に、神奈川県愛川町との友好都市の提携を結び、ここに35年を迎えることができました。この35年、愛川町民の皆さまをはじめ関係者の皆さまの両町の友好発展に向けたご尽力の賜物と、心から敬意と感謝を申し上げます。

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により交流事業の中止が続いておりますが、提携以来、さまざまな交流活動が行われてきました。8月の両町の中学生による青少年交流事業にあわせ、「立科えん」で「ご参加いただき親善を深めてまいりました。

秋の愛川町ふるさとまつり文化展では、当町の公民館活動グループなどの作品の展示が行われ、当町の文化展においても、愛川町文化協会加盟団体の作品の展示をいただいております。また、ふるさとまつりの際には、立科町のリンゴの即売により、愛川町の多くの方にお買い求めをいた

だいており、感謝に堪えない次第であります。

新春恒例の愛川町一周駅伝競走大会には、毎回ご招待をいただいております。沿道では、心温まる声援をいただき、参加する選手もその声援を力に、愛川路を疾走しています。

近年、地震や豪雨といった自然災害が数多く発生している中で、地域で暮らす町民生活の安心安全を確保していくことは重要なことであります。平成7年には、「災害時における相互援助に関する協定」を締結しており、平成23年の東日本大震災時にも被害状況などの情報を共有するなど、万が一への備えに対しての体制づくりも進めています。

教育・文化・スポーツ・産業・危機管理などさまざまな分野での交流を通じて、両町の絆が深化していることをうれしく思います。今まで積み上げてきた交流の礎を大切に、これからも積極的にさまざまな分野での交流・連携を推し進め、より一層の友好関係が深められるよう努めてまいりたいと考えております。

結びに、愛川町の更なるご発展、町民皆さまのご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げますとともに、これからも、心豊かな住みよい活力あるまちづくりを目指してまいりますので、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。あいさつとさせていただきます。

詳しくは、愛川町ホームページをご覧ください。  
 立科町内のホテルやペンションなどの宿泊施設を利用する方に宿泊費を助成しています。

観光

スキー場

愛川町からのアクセスも楽々、2時間半。晴天率80%のスキー場へ。



白樺高原国際スキー場



しらかば 2in1 スキー場



御泉水自然園

蓼科山の中腹、標高1,830mに位置し、東京ドーム約36個分に及ぶ広大な自然園。原生林の中には、約300種類の高山植物が自生し野鳥がさえずり、図鑑でしか見たことのない世界が広がります。自然園のなかの蓼仙の滝は落差約8メートルで、心地よい滝の音やしぐさに清涼感いっぱい。

蓼仙の滝



蓼科山

八ヶ岳連峰の最北端に位置する蓼科山。標高は2,531m。その美しい山容から「女の神山」や「諏訪富士」とも呼ばれ、日本百名山にも数えられます。山頂からの展望は八ヶ岳、南アルプス、中央アルプス、御嶽山、乗鞍岳、北アルプス、霧ヶ峰、浅間連山と360度の大展望で名だたる山を望むことができます。

蓼科牧場

ゴンドラリフト

白樺高原の大自然を満喫できる観光スポット。ゴンドラリフトでは、御泉水自然園まで絶景の空中散歩が楽しめます。ゴンドラリフト頂上駅前の「女神のそらテラス1830」からの眺めは絶景です。



女神湖

蓼科山を姿見のように湖面に映す女神湖。湖周には遊歩道も整備され、ザゼンソウやスズラン、レンゲツツジ、紅葉と四季折々の彩りを眺めながら、のんびり散策が楽しめます。



立科町

人口6,936人(令和4年4月1日現在)。長野県の東部に位置し、南北26.4km、東西9.9kmと南北に細長く、面積は66.87km<sup>2</sup>です。八ヶ岳連峰の北山麓に広がり、雄大な蓼科山をはじめとする豊かな自然環境に恵まれた観光と農業の町で、南部は蓼科山麓の高原地帯で、女神湖・白樺湖・蓼科牧場を有する一大リゾート地、北部は山麓から田園地帯へと広がる大地で、稲作を中心として、リンゴや畜産、ソバ、ワイン用ブドウなどの農業が盛んです。立科町は昭和30年4月、芦田村、横鳥村、三都和村の合併により立科村が誕生し、その後の昭和33年10月に町制を施行しスタートしました。

アクセス：相模原I.C → (圏央道) → (中央道) → 諏訪南I.C → (八ヶ岳エコーライン) → (国道152号) → (県道40号) → 立科町

交流

愛川町一周 駅伝競走大会



立科町チームも愛川町のみなさんと一緒に快走します。



愛川町ふるさとまつり 文化展・文化祭

立科町からも作品の出展と御泉水太鼓保存会が出演しました。



青少年交流会 町民まつり「立科えんでこ」への参加やキャンプファイア、そば打ち体験を楽しんでいました。



立科えんでこへ参加



中学生による青少年交流

このほかにも本年度は 35周年記念事業を予定しています!

- 「愛川町ふるさとまつり」立科町特産品プレゼント企画
- 立科町へのバス観光ツアー
- 両町消防団の相互交流 ※立科えんでこは中止!

特産品



年間降雨量が少なく晴天率の高い立科町、この恵まれた気候と肥沃な土壌、蓼科山からの清涼な水を受け、心ときめく特産品がいっぱい。果汁が多く香り豊かな「リンゴ」、粘土質の土壌によりうまみをたっぷり含んだ「米」、肉質がきめ細やかで、やわらかく、甘みがある「信州蓼科牛」をぜひ味わってください。